

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月13日

【四半期会計期間】 第109期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 DOWAホールディングス株式会社

【英訳名】 DOWA HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山田政雄

【本店の所在の場所】 東京都千代田区外神田四丁目14番1号

【電話番号】 東京03-6847-1107

【事務連絡者氏名】 経理・財務部門部長 菅原善明

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区外神田四丁目14番1号

【電話番号】 東京03-6847-1107

【事務連絡者氏名】 経理・財務部門部長 菅原善明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

証券会員制法人札幌証券取引所
(札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)

証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第108期 第3四半期 連結累計期間	第109期 第3四半期 連結累計期間	第108期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	279,458	290,870	379,816
経常利益 (百万円)	19,785	15,470	23,371
四半期(当期)純利益 (百万円)	9,795	6,494	8,521
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,745	5,044	5,368
純資産額 (百万円)	116,153	116,138	113,785
総資産額 (百万円)	340,030	314,081	340,161
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	33.11	21.95	28.80
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	32.09	34.49	31.41

回次	第108期 第3四半期 連結会計期間	第109期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.52	5.84

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ）は含まれていません。

3 第108期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しています。

4 第108期、第108期第3四半期連結累計期間及び第109期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社をいう。以下同じ）が判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国や欧州では、欧州債務危機による金融市場の混乱や、失業率の増加など経済活動に停滞感が見られました。中国やインドなど新興国では、成長は継続しているものの、金融引き締めやタイの洪水などにより減速感が強まりました。国内では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により生産活動が停滞するなど大きな影響を受けましたが、サプライチェーンの回復とともに徐々に生産活動の復旧が進みました。一方、外需の伸び悩みや円高による輸出環境の悪化、国内市場の縮小など、厳しい状況が続いています。

当社グループの事業環境については、自動車関連製品は、東日本大震災の影響による落ち込みから想定よりも早いペースで回復し、その後も比較的堅調に推移しました。また電子材料向け製品は、東日本大震災やタイの洪水によるサプライチェーンの混乱があり、加えて半導体関連製品は生産調整の影響を受けました。一方では、スマートフォンや多機能携帯端末向け製品などの需要が拡大しました。相場面では、金属価格が総じて高値圏で推移しましたが、為替は円高基調が継続しました。

当社グループは、このような状況の中、東日本大震災の影響を受けた生産拠点の早期復旧や夏場の電力不足対応など操業の安定化に努め、また中国やインド、東南アジアなどアジア地域への事業展開を進め、事業環境の変化に対応してきました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比4%増の290,870百万円、営業利益は同14%減の16,330百万円、経常利益は同22%減の15,470百万円、四半期純利益は同34%減の6,494百万円となりました。

主要セグメントの状況は次のとおりです。

環境・リサイクル部門

廃棄物処理は、全体的に顧客の廃棄物排出量が伸び悩む中で集荷ネットワークを強化し増集荷・増処理を図りました。また、エコシステム山陽㈱で開始した微量PCB廃棄物処理事業が計画通り順調に立ち上がりました。土壌浄化は、不動産取引が低調な中、新規浄化技術の導入や海外案件の受注に努めました。リサイクルでは電子部品や廃家電、シュレッターダストの回収に努めましたが、廃家電の数量が落ち込みました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比14%増の66,813百万円、営業利益は同16%増の2,934百万円となりました。

製錬部門

金属価格については、上期は、歴史的な高値圏まで上昇した金・銀・銅をはじめ、亜鉛・鉛・インジウムなども前年同期より上昇しました。しかし、第3四半期では銅、亜鉛などで調整局面に入り、価格が下落しました。

震災の影響で、製錬所のうち小坂製錬㈱、秋田製錬㈱が操業を一時的に停止しましたが、早期に操業を再開し生産量の確保に努めました。また、持分法適用会社の小名浜製錬㈱も操業を再開し、第3四半期は順調に操業しています。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比9%減の127,352百万円、営業利益は前期に中間半製品の売却による一時的な収益があったこともあり、同28%減の3,749百万円となりました。

電子材料部門

パソコンや携帯電話などIT関連製品について市場ニーズの実現に加えて、パワー半導体向けの窒化物半導体(HEMT)など新製品の上市や新規顧客の獲得に努めました。需要面では、上期は比較的堅調に推移したものの、第3四半期に入り、半導体や電子材料の一部で在庫調整が本格化し、販売量が落ち込みました。

これらの結果、当部門の売上高は、銀などの地金価格が上昇した影響で前年同期比26%増の65,091百万円、営業利益は同29%減の4,041百万円となりました。

金属加工部門

自動車向けなどの端子やコネクタに使われる伸銅品やめっき品は、第1四半期では国内自動車生産が震災の影響で減少したことを受け販売量が減少しましたが、第2四半期に入り急速に回復し前年度並みの水準となりました。一方で半導体向けの伸銅品は需要回復が遅れています。産業機械向けのセラミックス基板は需要が比較的堅調に推移し、また歩留まりの向上や生産性の改善に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比4%増の58,467百万円、営業利益は同12%減の3,409百万円となりました。

熱処理部門

熱処理加工では、第1四半期では国内自動車生産が震災の影響で減少したことを受け受注が減少しましたが、第2四半期以降は前年度並みに回復しました。このような状況の中、生産効率の高い工場へのシフトを進めるなど生産体制の強化に取り組みました。工業炉は、海外での生産拡大に合わせて新炉の拡販やメンテナンス需要の掘り起こしに努め、売上を増加させました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比15%増の13,889百万円、営業利益は同35%増の1,336百万円となりました。

その他部門

その他部門の売上高は6,567百万円、営業利益は110百万円となりました。

(注)当該項目に記載の売上高には消費税等を含めていません。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して26,079百万円減少し、314,081百万円となりました。流動資産で21,124百万円の減少、固定資産で4,955百万円の減少になります。

流動資産の減少は、現金及び預金残高を圧縮したことにより8,686百万円減少させ、またたな卸資産の削減により、原材料及び貯蔵品が18,323百万円減少したことによりです。固定資産の減少は、所有している上場株式の時価が下落したことなどにより投資有価証券が3,630百万円減少したことによりです。

負債は、前連結会計年度と比較して28,433百万円減少し、197,943百万円となりました。これは主に地金リース残高や借入金等の減少によりです。

純資産については、当第3四半期（累計）純利益を6,494百万円計上した一方で配当金の支払により、株主資本が3,467百万円増加しました。また、株式の時価評価、デリバティブ取引の時価評価などによりその他の包括利益累計額が1,976百万円減少しました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から3.1%増加し34.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及びあらたに生じた課題はありません。

当社は、株式会社の支配に関する基本方針を定めていませんが、基本的な考え方として、次のとおり「情報と時間ルール」を定めています。

情報と時間ルール

当社取締役会は、議決権割合が20%以上となる当社株式の買付行為（以下、大規模買付といいます）を受け入れるかどうかは、最終的には、株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると認識しております。その判断にあたっては、当社の事業規模や事業領域に照らして、大規模買付を行おうとする者（以下、大規模買付者といいます）と当社取締役会の双方からの「適切な情報提供」と「十分な検討期間の確保」が必要であると考えます。

このような基本的な考え方に基づき、当社取締役会は、大規模買付を認識したときは、大規模買付者に対し、次の情報（以下、大規模買付情報といいます）を他の株主及び取締役会に提供することを求めます。

大規模買付の目的及び内容

買付価格の算定根拠及び買付資金の裏付け

大規模買付完了後に意図する当社経営方針及び事業計画

その他株主価値に影響する重要な事項に関する情報

当社取締役会は、大規模買付情報を検討したうえで、当該大規模買付に対する評価意見を公表します。その際には、取締役会から独立した第三者により構成される委員会（以下、独立委員会といいます）の意見を求めます。

また、当社取締役会は、当社株式の取引や異動状況を常に注視し、大規模買付がなされた場合に迅速かつ適切な対応をとり得る社内体制を整備いたします。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は3,304百万円です。

なお、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書」の当第3四半期連結累計期間における「開発研究費」は3,495百万円ですが、これには研究開発費のほか、新鉱床探鉱費等191百万円が含まれています。

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の重要な変更は、次のとおりです。

電子材料部門

平成23年9月末で事業化推進室を廃止し、機能材料研究所に統合しています。

金属加工部門

車載コネクタ世界標準材のNB-109をはじめとした銅合金の板厚高精度化、1GPaを超える強度と曲げ加工性を両立したYCuT-FXシリーズのプロセス開発と生産性向上、組織制御による銅合金の特性向上と新合金開発、次世代車載向け超小型端子用新合金及び新めっき技術の研究開発、工程改善による歩留向上、設備・装置の開発・改造による銅合金・黄銅の品質及び生産性向上、貴金属めっきの高品質化及びスポットめっきの高精度・高効率化、リチウムイオン電池向けめっきの生産性向上、金属セラミックス接合基板の信頼性・生産性向上、ハイブリッド車や燃料電池車向けの新構造基板の製造プロセス開発と生産性向上などに取り組んでいます。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループは、コアビジネスである環境・リサイクル部門、製錬部門、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門を中心に事業を行っており、このうち製錬部門などは、非鉄金属地金相場及び為替相場の変動の影響を受けやすいため、状況に応じて非鉄金属先物取引及び為替予約取引などによりリスク軽減に努めています。

当社グループでは、今後も収益性の向上及び財務体質の改善に努めていきますが、非鉄金属地金相場及び為替相場の急激な変動、景気動向などの外的要因により業績に影響を受ける可能性があります。

事業環境は、需要の先行き不透明感が続き非常に厳しい状況にあり予断を許さない状況にあります。

このような状況の中、当社グループは「構造改革」の諸施策を断行し、厳しい経済環境の中でも利益を確保できるよう企業体質の強化を進めます。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	309,946,031	309,946,031	東京・大阪・名古屋・札幌・福岡各証券取引所 (東京・大阪・名古屋は市場第1部)	単元株式数は1,000株です。
計	309,946,031	309,946,031		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日		309,946		36,437		9,110

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,412,000		
	(相互保有株式) 普通株式 14,391,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 285,172,000	285,172	
単元未満株式	普通株式 971,031		
発行済株式総数	309,946,031		
総株主の議決権		285,172	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義書換失念株が1千株含まれており、当該株式に係る議決権1個を議決権の株に含めています。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) DOWAホールディングス 株式会社	千代田区外神田四丁目14番 1号	9,412,000		9,412,000	3.04
(相互保有株式) 藤田観光株式会社	文京区関口二丁目10番8号	14,385,000		14,385,000	4.64
株式会社岡山臨港	岡山市南区海岸通二丁目1 番16号	6,000		6,000	0.00
計		23,803,000		23,803,000	7.68

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,231	8,545
受取手形及び売掛金	55,484	53,813
商品及び製品	16,021	20,917
仕掛品	3,980	6,285
原材料及び貯蔵品	59,790	41,466
繰延税金資産	6,605	3,244
その他	8,755	12,158
貸倒引当金	416	101
流動資産合計	167,453	146,328
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	88,581	91,750
減価償却累計額	47,535	49,723
建物及び構築物（純額）	41,045	42,026
機械装置及び運搬具	184,381	191,361
減価償却累計額	150,614	158,889
機械装置及び運搬具（純額）	33,766	32,472
土地	22,275	22,224
建設仮勘定	5,052	3,478
その他	11,756	12,450
減価償却累計額	9,795	10,267
その他（純額）	1,961	2,183
有形固定資産合計	104,101	102,384
無形固定資産		
のれん	6,506	6,130
その他	1,593	2,334
無形固定資産合計	8,099	8,464
投資その他の資産		
投資有価証券	52,315	48,685
長期貸付金	223	173
繰延税金資産	5,542	5,870
その他	2,629	2,300
貸倒引当金	204	125
投資その他の資産合計	60,506	56,903
固定資産合計	172,708	167,752
資産合計	340,161	314,081

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,367	32,434
短期借入金	54,290	47,919
未払法人税等	2,732	1,159
未払消費税等	2,156	653
引当金		
賞与引当金	2,831	1,513
役員賞与引当金	158	105
引当金計	2,989	1,619
その他	28,695	17,852
流動負債合計	124,232	101,638
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	73,829	67,372
繰延税金負債	1,888	1,620
引当金		
退職給付引当金	10,637	10,612
役員退職慰労引当金	517	596
その他の引当金	537	470
引当金計	11,691	11,678
その他	4,734	5,632
固定負債合計	102,143	96,304
負債合計	226,376	197,943
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,437	36,437
資本剰余金	26,362	26,362
利益剰余金	48,152	51,621
自己株式	5,763	5,765
株主資本合計	105,188	108,655
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,024	2,434
繰延ヘッジ損益	865	687
為替換算調整勘定	2,504	3,444
その他の包括利益累計額合計	1,654	322
少数株主持分	6,942	7,805
純資産合計	113,785	116,138
負債純資産合計	340,161	314,081

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	279,458	290,870
売上原価	240,716	254,031
売上総利益	38,742	36,839
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	2,465	2,408
販売手数料	412	408
役員報酬	1,026	959
給料及び手当	4,075	4,252
福利厚生費	1,092	1,121
賞与引当金繰入額	314	309
退職給付費用	318	343
役員退職慰労引当金繰入額	136	130
賃借料	539	538
租税公課	603	604
旅費及び交通費	957	967
減価償却費	528	543
開発研究費	3,186	3,495
のれん償却額	398	376
その他	3,751	4,048
販売費及び一般管理費合計	19,808	20,509
営業利益	18,933	16,330
営業外収益		
受取利息	100	84
受取配当金	599	531
為替差益	409	-
持分法による投資利益	1,529	-
受取ロイヤリティー	206	640
その他	1,210	1,276
営業外収益合計	4,055	2,532
営業外費用		
支払利息	1,692	1,495
為替差損	-	160
持分法による投資損失	-	542
その他	1,511	1,193
営業外費用合計	3,203	3,392
経常利益	19,785	15,470

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
特別利益		
補助金収入	14	342
固定資産売却益	88	30
受取保険金	-	22
貸倒引当金戻入額	51	-
投資有価証券売却益	38	-
その他	67	127
特別利益合計	261	523
特別損失		
災害による損失	-	624
環境対策費	-	559
固定資産除却損	275	309
投資有価証券評価損	1,114	250
事業撤退損	-	243
減損損失	59	125
退職給付制度改定損	832	34
固定資産売却損	2	3
貸倒引当金繰入額	171	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	80	-
その他	216	437
特別損失合計	2,752	2,589
税金等調整前四半期純利益	17,293	13,404
法人税、住民税及び事業税	3,113	2,433
法人税等調整額	2,911	3,899
法人税等合計	6,024	6,333
少数株主損益調整前四半期純利益	11,268	7,070
少数株主利益	1,473	576
四半期純利益	9,795	6,494

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	11,268	7,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,834	2,725
繰延ヘッジ損益	638	1,552
為替換算調整勘定	536	491
持分法適用会社に対する持分相当額	513	361
その他の包括利益合計	3,523	2,025
四半期包括利益	7,745	5,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,284	4,517
少数株主に係る四半期包括利益	1,461	527

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<p>(1) 連結の範囲の重要な変更 連結子会社数 63社</p> <p>第1四半期連結会計期間より、DOWA METALTECH(THAILAND)CO., LTD. 及び天津同和緑天使頂峰資源再生有限公司は重要性が増したため、連結の範囲に含めています。</p>

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<p>第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しています。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)																						
<p>1 保証債務 次の会社の銀行借入金に対して保証を行っています。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">小名浜製錬(株)</td> <td style="text-align: right;">4,726百万円</td> </tr> <tr> <td>TDパワーマテリアル(株)</td> <td style="text-align: right;">219 "</td> </tr> <tr> <td>CARIBOO COPPER CORP.</td> <td style="text-align: right;">205 "</td> </tr> <tr> <td>卯根倉鋳業(株)</td> <td style="text-align: right;">102 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,253 "</td> </tr> </table> <p>上記には、外貨建保証債務2,400千C\$ (205百万円)が含まれています。</p>	小名浜製錬(株)	4,726百万円	TDパワーマテリアル(株)	219 "	CARIBOO COPPER CORP.	205 "	卯根倉鋳業(株)	102 "	計	5,253 "	<p>1 保証債務 次の会社の銀行借入金に対して保証を行っています。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">小名浜製錬(株)</td> <td style="text-align: right;">7,046百万円</td> </tr> <tr> <td>CARIBOO COPPER CORP.</td> <td style="text-align: right;">206 "</td> </tr> <tr> <td>昆山同和熱処理工業炉有限公司</td> <td style="text-align: right;">184 "</td> </tr> <tr> <td>TDパワーマテリアル(株)</td> <td style="text-align: right;">164 "</td> </tr> <tr> <td>卯根倉鋳業(株)</td> <td style="text-align: right;">84 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,687 "</td> </tr> </table> <p>上記には、外貨建保証債務2,600千C\$ (206百万円)及び15,000千人民元 (184百万円)が含まれています。</p>	小名浜製錬(株)	7,046百万円	CARIBOO COPPER CORP.	206 "	昆山同和熱処理工業炉有限公司	184 "	TDパワーマテリアル(株)	164 "	卯根倉鋳業(株)	84 "	計	7,687 "
小名浜製錬(株)	4,726百万円																						
TDパワーマテリアル(株)	219 "																						
CARIBOO COPPER CORP.	205 "																						
卯根倉鋳業(株)	102 "																						
計	5,253 "																						
小名浜製錬(株)	7,046百万円																						
CARIBOO COPPER CORP.	206 "																						
昆山同和熱処理工業炉有限公司	184 "																						
TDパワーマテリアル(株)	164 "																						
卯根倉鋳業(株)	84 "																						
計	7,687 "																						
<p>2 債権流動化に伴う偶発債務は、次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">買戻し義務</td> <td style="text-align: right;">527百万円</td> </tr> </table>	買戻し義務	527百万円	<p>2 債権流動化に伴う偶発債務は、次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">買戻し義務</td> <td style="text-align: right;">604百万円</td> </tr> </table>	買戻し義務	604百万円																		
買戻し義務	527百万円																						
買戻し義務	604百万円																						

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
	1 災害による損失のうち、598百万円は東日本大震災及び4月に発生した余震によるもので、内訳は次のとおりです。
	操業休止期間の製造固定費 322百万円
	設備の復旧費用等 241 "
	その他 34 "
	計 598 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費 13,339百万円	減価償却費 13,210百万円
のれんの償却額 398 "	のれんの償却額 376 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	3,005	10	平成22年3月31日	平成22年6月25日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	利益剰余金	3,005	10	平成23年3月31日	平成23年6月27日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	環境・リ サイクル	製錬	電子材料	金属加工	熱処理	計				
売上高										
外部顧客への売上高	36,505	123,494	50,233	55,967	12,085	278,286	1,171	279,458		279,458
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	22,069	16,616	1,469	29	0	40,185	6,796	46,981	46,981	
計	58,575	140,111	51,702	55,996	12,085	318,471	7,968	326,440	46,981	279,458
セグメント利益	2,519	5,207	5,709	3,882	990	18,308	38	18,346	586	18,933

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸業、プラント建設業、土木工事業、建設工事業、事務管理業務、技術開発支援業務など、主にグループ間取引を含んでいます。
2 セグメント利益の調整額586百万円には、セグメント間取引消去額659百万円及び未実現利益の調整額 73百万円が含まれています。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	環境・リ サイクル	製錬	電子材料	金属加工	熱処理	計				
売上高										
外部顧客への売上高	40,970	114,279	62,360	58,448	13,888	289,948	922	290,870		290,870
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	25,843	13,072	2,730	18	0	41,666	5,644	47,310	47,310	
計	66,813	127,352	65,091	58,467	13,889	331,614	6,567	338,181	47,310	290,870
セグメント利益	2,934	3,749	4,041	3,409	1,336	15,471	110	15,581	748	16,330

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸業、プラント建設業、土木工事業、建設工事業、事務管理業務、技術開発支援業務など、主にグループ間取引を含んでいます。
2 セグメント利益の調整額748百万円には、セグメント間取引消去額621百万円及び未実現利益の調整額127百万円が含まれています。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	33円11銭	21円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	9,795	6,494
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	9,795	6,494
普通株式の期中平均株式数(千株)	295,823	295,899

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月9日

DOWAホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中野 眞一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西川 福之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているDOWAホールディングス株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、DOWAホールディングス株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。